

# 成果主義が賃金格差に与える影響

大阪大学 経済学研究科

明坂弥香

1990年代から日本における賃金格差の拡大が進んでいる。近年の賃金格差拡大の背景には技術革新やグローバル化があるとされているが、賃金制度の変化もその一因であると考えられる。具体的には、1990年代より日本企業で導入が進められてきた成果主義賃金制度の影響が挙げられる。本研究の目的は、日本での成果主義的な賃金制度の導入が賃金格差拡大に影響を与えているかを実証的に明らかにすることである。具体的には大阪大学による『くらしと好みと満足度についてのアンケート』をもとに、成果主義的な賃金制度が導入されている労働者グループとそうでない労働者グループにサンプルを分け、二つのグループの賃金格差を比較・分析する。この二つのグループは異なる労働者属性の分布を持っているため、成果主義が賃金格差に与える影響を正確に分析するためには、労働者属性の違いをコントロールする必要がある。そこでDFL分解を用いて労働者属性の効果をコントロールした上で、賃金階層ごとの成果主義制度の効果を測定する。さらにウエイト付きRIF回帰分解(Reweightd RIF regression decomposition)によって、賃金階層ごとに制度の効果の要因分解を行う。

検定の結果から、大きく3つのことが明らかになった。第一は、成果主義が賃金格差へ与えた影響である。成果主義は全体的な賃金格差に影響を与えたとは言えないが、低い賃金層内での格差を拡大させ、高い賃金層内の格差を縮小させていた。第二は、このような賃金格差への影響を引き起こす要因である。低い賃金層内の格差が拡大したのは、成果主義によって職種間・勤続年数間・潜在的経験年数間の賃金格差が拡大したためであった。一方で高い賃金層内の格差が縮小したのは、成果主義によって潜在的経験年数間と企業規模間の賃金格差が縮小するためであった。第三は、成果主義による賃金格差への影響が、アメリカでの研究結果と大きく異なる理由である。アメリカでの研究結果では、成果主義による格差拡大効果は高い賃金層ほど大きく観察されていた。しかし日本のデータを使った本研究の結果では、成果主義によって低い賃金層内の格差が拡大し、高い賃金層内の格差が縮小していた。このように効果の表れ方が異なる原因のひとつは、日本の伝統的な賃金制度においては年齢間賃金格差が大きかったためだと考えられる。

*Key Words* : 成果主義 ; 賃金格差 ; 賃金階層

*JEL classification* : J31 ; J33 ; C31